

事務事業名	病児・病後児保育事業	所属部	こども政策局	所属課	こども政策課
政策名	〈Ⅲ〉支えあい健やかに暮らせるまち〈保健・医療・福祉〉	所属G	教育・保育グループ	課長名	後藤 和子
施策名	〈25〉子育て支援の充実	担当者名	吉川 裕子	電話番号	0854-40-1044 (内線) 2253
目的	対 象 A)子どもの保護者と産み育てたい夫婦 B)乳幼児・児童・生徒(0～18歳)	意 図	A)安心して子育てができる。 B)心身ともに健やかに育つ。	会計	款 大事業 大事業 0:1 1:5 0:2 項 目 中事業 中事業
基本事業	〈072〉子育てと仕事の両立支援	予算科目	1:0 0:5 0:6	事業名	児童福祉総務管理事業
目的	対 象 保護者	意 図	子育てと仕事を両立できる。	事業名	病児病後児保育事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
病気の回復期にある乳幼児から小学校6年生までの児童とその保護者	保護者の子育てと就労の両立を図る。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(H21 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	病気の回復期にあり、かつ集団保育が困難な期間において、当該児童を専用施設または保育所内で一時的に預かる事業。(看護師:常時配置、保育士:児童数に応じ配置) 利用料金:1,500円/日(食事なし1,200円/日) 対象児童:乳幼児から小学校6年生までの児童 ※掛合保育所・加茂こども園は未就学児対象
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R5年度実績(R5年度に行った主な活動) 業務委託契約締結、委託料支払い、委託先との協議、申込受付、決定、利用料徴収、施設維持管理	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) 保育ニーズに対応するため国標準に基づき実施。平成21年度大東地区に病後児施設を、平成26年度に掛合地区、平成28年度に三刀屋地区に病後児施設を整備(定員2名)。平成30年度に大東の施設を病児対応型にし定員を4名に拡大。令和3年度に加茂こども園内に病後児保育室を設置。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (計画)
ア 利用者数/申込数	%	86.0	86.3	85.4	100.0
イ					
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)	② コストの推移	単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)
委託料(運営委託分):21,311千円、需用費他:540千円 計21,851千円 【財源内訳】 国:子ども・子育て支援交付金7,148千円 県:子ども・子育て支援交付金7,148千円 保護者負担金:616千円	財源内訳	国庫支出金	千円 6,388	6,296	7,148	7,300
		県支出金	千円 6,388	6,296	7,148	7,300
		地方債	千円			
		その他	千円 515	656	616	640
		一般財源	千円 4,906	5,113	6,939	7,300
	事業費計	千円	18,197	18,361	21,851	22,540

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	集団保育が困難な病児・病後児を預かることで、仕事と子育ての両立に資し、以て子育て支援となった。コロナ禍も収束状況にあり、利用人数が徐々にコロナ前に戻りつつある。 令和4年度に、掛合と加茂の施設を体調不良児対応型から病後児対応型に変更し、保育所通所児以外の児童も受入が可能となった。
② 事業実施するうえでの課題	現在4施設(病児病後児対応型1施設、病後児対応型3施設)において事業実施しているが、利用施設に偏りがあつたり、二重予約される家庭があり、現に利用できる人数が提供できていない場合もある。 子育てと就労の両立するために、病児・病後児のニーズが年々高まっているが、利用希望者すべての受入が困難な状況。近年では病児の受入ニーズが特に高まっている。 当日キャンセルが増加傾向にあり、効率的な利用に弊害が出ないよう対策が必要。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・平成28年度より三刀屋健康福祉センター内の一室を改修して病後児保育室を新設。 ・平成30年度よりだいう病後児保育室を病児保育室とし開設し、定員を2名から4名へ拡大した。 ・令和3年4月より、加茂こども園にて病後児保育室を開設。 ・利用施設の周知を強化する。 ・二重予約や当日キャンセルの対応策として、予約システム等の導入を検討する。